

「サウルの信仰はつながって いなかった」

サムエル記第1 15章22～23節

1

神のことばとつながって いなかった

- キシュにはひとりの息子がいて、その名をサウルと言った。彼は美しい若い男で、イスラエル人の中で彼より美しい者はいなかった。彼は民のだれよりも、肩から上だけ高かった。
1サムエル9:2
- 頭もよく、口も達者、優れた戦士でもあった
- サウルの信仰は時代の流れに従っていた
- 「そのころイスラエルには王がなく、めいめいが自分の目に正しと見えることを行っていた。」 士師記21:25

2

神のことばとつながって いなかった

- サウルの目に正しく見えることも、神の目には悪であった。15:19
- 自分の失敗を認めるよりも、人のせいにし、言い訳をし、自分を正当化しようとした。
- イエスを自分中心の道へと誘惑した悪魔の影響がこの世の自分中心の精神、文化にある。
- サウルは神よりも、自分に従った。（「自分的」に神に従った。）

3

神のことばとつながって いなかった

- サウロの信仰は、自己満足的な、自分に都合の良い解釈に基づいた信仰。
- 「サウルらしく」生きたかもしれないけど、その「サウルらしさ」、自分らしさに問題があった。
- まことの神と出会うことは、自分が変わることに救われるとは変わることに。(悔い改め、新生)
- 罪が赦されて天国に入れればそれでいい？ という考え方、そのような信仰や福音は、ゆがめられたもの。

4

神とつながって いなかった

- 神中心の、神の栄光を求める信仰ではなかった。
- アマレクとの戦いに勝った時、神に感謝と賛美を捧げたのではなく、まず自分のために記念碑を建てている。15:12自分のことが最優先。神の栄光より自分の栄光
- 神の目よりも、自分の目、人々の目
- 民が惜しんだ、サウルは民を恐れた。15:15
また自分の面目を優先した 15:30
- 御栄(みさかえ)よりも、見栄(みえ)。

5

神とつながって いなかった

- 今の時代と共通している部分が多い。サウルから学ぶことが多い。
- 自分に都合が良い、自分の好みに合う信仰
- 信仰は自分に安らぎを与えてくれるもので十分。自分の問題を指摘したり、自分を変えようとする信仰はいらない？
- サウロの信仰はサウロの生活、心ともつながって
いなかった。サウロを変えることができなかった。

6

神とつながっていなかった

- するとサムエルは言った。「主は【主】の御声に聞き従うことほどに、全焼のいけにえや、その他のいけにえを喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。まことに、そむくことは占いの罪、従わないことは偶像礼拝の罪だ。あなたが【主】のことばを退けたので、主もあなたを王位から退けた。」サウルはサムエルに言った。「私は罪を犯しました。私は【主】の命令と、あなたのことばにそむいたからです。私は民を恐れて、彼らの声に従ったのです。 1サムエル 15:22-24

7

もう一人のサウル

- 同じくベニヤミン族出身の青年
- ユダヤ人の青年の中では最も優秀な青年
- 後にパウロと呼ばれる、サウル(サウル)
- 自分的な信仰、思い込みに従ってクリスチャンを迫害していた。
- 「サウル、サウル。なぜわたしを迫害するのかわげのついた棒をけるのは、あなたにとって痛いことだ。」使徒26:14
- 「自分的(な信仰)に生きる」ことは自分の敵となること、神の敵となること。

8

もう一人のサウル

- サウル王は、自分のプライド、ねたみに従って、神が次の王に選んだダビデを迫害し続けみじめな人生を送り、周りの人を苦しめた。
- イエスは弟子たちに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。」マタイ16:24
- なぜ、自分を捨てる？死ななければならない？
- 自分が、自分の救いと成長(幸い)の一番の敵だから。自分的、自分敵？！

9

もう一人のサウル

- サウルを選び、王冠と王座を与えたのは神であったが、神に従うよりも自分に従った。
- サウルは、自分のプライド、冠にしがみつき、冠も自分のいのちも失い、滅びた。
- もう一人のサウル、パウロは、自分のプライドを捨てて、永遠のいのちを受け、冠も受けた。 2テモテ4:7-8
- パウロは、自分が誇りとしていたものは、イエス様と比べるなら「ちりあくた」と思った。 比3:7-8

10

もう一人のサウル

- 私はキリストとともに十字架につけられましたもはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。ガラテヤ2:20
- 自分らしさ、パウロらしさは神が完成させる。
- パウロは自分を捨てることを学び、変えられ、成長した。主といっしょに永遠に生きることを学んだ。それがパウロの信仰であり、福音。

11

もう一人のサウル

- サウルの信仰は、みことばにも、神にも、自分の生活、性格(心)にもつながっていなかった。サウルは最後まで自分中心で成長できなかった。
- パウロの信仰は、パウロの全生活とつながっていて、すべてを支配していた。生きた信仰、生きる信仰であった。その信仰(福音)によってパウロは成長した。

12